

“鮮度一番！”

No.197

～女性と男性が支え合う社会をつくる～

CONTENTS

- 1 / ひとつとコラム
- 2～4 / 運営委員会で話されたこと
- 4 / 編集後記

・・・ひとつとコラム・・・

「議論文化を育てよう」

エンカイテーナー

議会政治とは、自由な意見交換が保障されている。19世紀中ごろには英国の議会は次の確信と信条のもと言葉による決着方法を確立させた。「正しい決定に到達するためには、討論をすることに非常に積極的な価値がある」という確信。自分たちの考え方がはじめから正しいとは限らない。議論を戦わせていけば、もっといい考え方が見出されるものだと言う信念。いろいろ議論をしているうちにだんだん問題が分かってくると、人の考え方も変化していくもので、説得によって意見分布は変わる可能性があると言う信条」福田歓一『近代民主主義とその展望』(岩波新書)

以心伝心の国の自民党総裁は先週無投票で討論無しで決まった。「党の結束のために無投票となった」のだそうだ。意見の交換はすればするほどまとまらない、結局は調和・ハーモニー重視の文化。言霊の国では原発事故は起こるなんて言うのが本当起こるから誰も言わなかった。だが起きた。二度目の事故は起こるはずがない、とまた再稼働が始まった。

先日明治大学の鈴木健教授から興味深い授業について聞いた。ラーソン教授の、「説得術」のクラスで以下のような状況設定によるディスカッション例を示している(Larson, 1995)。かつて「エスキモー」と呼ばれたイヌイット族が、春に狩った唯一の食料であるトナカイの肉が秋につきかけて、冬の分がなくなってしまった。新たな食料を得ることなしには、飢え死にする運命が待っている。この問題に、どう対処すべきか。最も現実的な案から過激な案まで、いくつかの可能性が学生によって提示された。

- ①鹿を追いかけて、十分な肉を得て、食料を配付する。
- ②エビの卵、魚や鳥など、別の食料を配付する代替案を探る。
- ③若く健康な一団を派遣して、援助を求める。
- ④残りの食料の分配を切り詰めて、より長持ちするようにする。
- ⑤いままで食べなかったトナカイの皮、角、その他の部分を食べる。
- ⑥一部の人々を食べ物が豊富にある地方に移住させて、需要を減らす。
- ⑦一部の人々を殺して、需要を減らす。その他。

現実・・・、イヌイットはこうした状況に直面した場合、カナダ政府に助けを求めることも含めて、何もしないことである。④のように食料の分配を切り詰める以外は、あえて座して死を待つのである。「問題解決のために案を取る」という西洋人にとってあたり前のことも、実は文化的な価値観の一部なのだ。(Larson, U. L. Persuasion: Wadsworth Publishing Company.)

議論文化は、意識的に作らなければできないものではない。学校教育で議論による問題解決法を教えてほしい。どれ程の議員たちに、討論と説得の過程によって、多数と少数がひっくり返るということは、現実的にありえるという確信があるのだろうか。

運営委員会で話し合われたこと

日 時 平成27年9月16 (水) (AM9:30~11:30)

場 所 男女共同参画センター(桜木町)

今は、もう秋、誰もいない海～♪(トワエモア)
実りの秋であり、枯れゆく秋でもあります。酸いも甘いも噛み分ける私たちだからこそ見える景色をゆっくりと味わいたいですね。次回の運営委員会は、10月7日(水)9:30～男女共同参画センターです。どなたでもおいでください。

1. ニューヨーク、又エック報告

ばあちゃんニューヨークへ行く

H.Y

子どもが生まれたというので、息子の家族に会うためにNYに行ってきた。三人目の孫に初めて会う。個人旅行で、チケットをとるのも、ESTA申請(渡航認証許可)も自分でやってみた。今はインターネットですべてできる。会話もできないのに一人で大丈夫かと夫は言うが、単語が分かれば何とかなるだろう。下調べもできる準備はやった。あとは行くだけだ。13時間の搭乗の後、到着して歩き始めたら足がふらふら、エコノミー症候群に気を付けてと言われていたので、水分補給、足の運動はこまめにしたが、飛行機の中は寒くて困った。やはり老体にはきつい。

アメリカへの出入国はすいぶん厳しくなった。まず、デルタ航空JFK行搭乗口で止められ、持ち物検査、靴の中、ベルトのあるなし、服装のチェック、これは全員ではない。「ええっ、何で私が…」と思ったが。入国は時間がかかる。もっと効率的にできるのではと思うが、並ばされて、指紋、顔写真も撮る。帰りの出国時は、靴を脱いで、変なブースに入って万歳させられる。ボディチェックはさすがに女性には女性の係官がする。出国に時間がかかったので免税店でお土産を買うこともできずに乗り込む。成田でキャリーバックを受け取ると向こうのチェックで開けられたようで、テープが巻いてあった。目印で疑われたようだ。カメラなどあると向こうの係に抜かれることもある。貴重品は入れられない。20年前に行ったときの出入国はもっと簡単だった。これは9.11以後の変化だろう。

夕方6時に成田から出て、JFKに同じ日の夕方6時に着くのはやはり変な感覚。サマータイムとかもなんだかよく分からない。迎えの息子の顔を見つけてほっとする。翌日は私のゴールデンタイム。近代美術館、フリックコレクション、メトロポリタン美術館のはしご。一人でふらふら歩いて、一日思う存分芸術を楽しんだ。夕方、近くのマーケットで買い物をして夕食は私が作る。3日目は子守をして、息子夫婦を外出させる。久しぶりに二人だけで出かけられて嬉しいと彼女。夕食はもちろん私の作ったもの。彼らの生活ぶりを見て教えられることもたくさんあった。ベジタリアンになったという二人は、肉は食べず乳製品も避ける。魚と野菜、豆、玄米。NYはベジタリアンが多いのだという。外食で和食はぜいたくで、ラーメンは2000円。円が安いせいもあるが、NYは東京より物価が高いと感じた。美術館でお昼を食べたときに18ドル、さしておいしいとは言えないが2000円以上だ。彼らの生活はぜいたくをしていないというが、アパートの家賃は1800ドル、1か月どれくらいで生活しているのか聞くのもこわい。そしてアパートの前で人が撃たれたとか、銃撃戦も見ただことがあるとか。救急車やパトカーの音がうるさい。銃の数が人口よりも多いという、やるかやられるかというアメリカ社会の一面を聞かされる。私が買い物で財布を出すと、お金を見せちゃだめだと息子が言う。すぐ狙われるのだと。ホームレスも普通に道にいる。地下鉄の線路にはゴミが捨てられ、ネズミをみてびっくりすると、当たり前のことなのだ。臭いとゴミの多さに辟易する。人種、収入差で住む場所が違い、街の様相もその極端さがはっきりしている。地下鉄に乗ると向かいの人の顔がみんな異なる、なるほどNYは人種のるつぼだと納得した。人種差別もあって、日本人も差別されるが、同じアジア人ということで中国や韓国の人には助けられる。大家さんは中国人で、違法な建物だがその分家賃を安くしてくれるとか。ポーっとしてられないし緊張感を持って生活している。やはり子どもは安全なところで普通に育てたいので、日本へ帰る準備をするとのことだった。

三人でいろいろなことを話した。息子の变身ぶりにはびっくり。二人で出産の大変さを乗り越えたのだ。子どもの面倒をよくみるし、台所仕事もする。掃除機もかける。ごく自然に動いている。二人で助け合わなければ生きていけない状況なのだろうが、夫婦の価値観が同じことが大事なのだ。「女はえらい、男はもっと考えないと」というのだから、彼女を大事にしてくれるだろう。最後まで二人が私に対して細かい気遣いをしてくれて嬉しかった。空港で何度も手を振り合い、別れた後はちょっと涙がにじんだ。

家に着いて、お互いにありがとうメールを打った。

平成27年度「男女共同参画推進フォーラム」に参加して

西方久子

8月21日(金)独立行政法人 国立教育会館で、「NWEC フォーラム」～一人ひとりの活躍が社会を創る～が開催された。三条市では初めての金曜日(平日)の研修バスツアーで、5人全員女性。朝6時出発なのに、明るく元気なおばちゃん5人で、あっという間の3時間(口が疲れたかな?)

午前中は、13のワークショップの中から、働く女性の立場である私は、(財)21世紀財団主催の「働く女性の意識改革～企業・上司・女性自身の立場を考える～」に参加した。岩田会長の「働く女性や管理者の意識改革と会社としてやるべきこと」を30分講演後、6つのテーマ別に分かれ、グループディスカッションを行った。参加者は、男女共同参画センター職員などの公的機関で働く人たちが多く、名刺交換から始まった。(参加して10年、市民レベルではないようだ)内容も良かったが、進行役のうまさ・効率的なグループワークのあり方を学ぶことができた。また、発表・まとめでも共感!!大満足でした。

午後は、「北京世界女性会議～あの時、今、そしてこれから」のシンポジウムで、有馬真喜子さんのコーディネーターのもと、4人のパネリスト ①林陽子さん(国連女性差別撤廃委員会委員長) ②坂東眞理子さん(学校法人昭和女子大学理事長) ③船橋邦子さん(北京 JAC 代表) ④谷口真由美さん(大阪国際大学准教授)で、素晴らしい女性リーダーたちの話が聴けて感謝ですね。

その中で強烈な印象だったのは、『全日本おばちゃん党(AJOP)』代表でもある谷口さんの大阪のおばちゃんキャラの凄さ(全員を引きつける魅力と頼もしさ!)自己紹介から自分らしく本音で話しますと、元気パワー全開!! 私もなりたい!!「三条のおばちゃん!」いやいやそれはおこがましいね。「Tシャツとスパッツ姿の太った三条の産婆(サンバ)ちゃん」がいいかな(笑)

<大阪のおばちゃんたちは、「おばちゃん」と「おばはん」は違うということです>

枝豆とビールの時期が終わり寂しい女より

広報三条に目を通していたら「男女共同参画推進フォーラム」に参加の案内が目にとまり応募させていただきました。実は、このフォーラムの内容も分からずに参加したもので、会場に着いてから規模や内容の充実さに驚くばかりでした。

午前はワークショップがあり、私は「ピーターラビットのおはなし」から読み解く「女性の社会進出、男女共同参画環境保全」に参加しました。私は小学校で子どもたちに読み聞かせをしている事もあり、「ピーターラビットのおはなし」の本が出来る過程の中で作者のピクトリア・ポーターが家庭教師の息子さんに送った二枚の絵はがきが元になっている事やこの本でポーターさんは女性として絵本作家という職業で自立をし、頂いた本の印税やグッズの収入を社会活動の基としキャリアを積んでいられました。このような事から環境保護活動を展開し社会に貢献したことなど多くの活動内容を学ぶことが出来ました。

午後からのシンポジウムには大勢のかたが参加されていることに驚き、またパネリストの皆さんからは大変興味深いお話をお聞きすることができ、今回の「男女共同参画推進フォーラム」に参加し、いろいろな面で勉強をさせて頂き良かったなと思いました。

2.

燕三条エフエム放送(ラヂオは～と 76.8MHz)ワイワイ女性ひろば

●本放送 毎週金曜日 11:00～11:30 ●再放送 毎週水曜日 19:30～20:00

9月のテーマ「市島教授のコミュニケーション講座」

- ①プラス思考の脳をつくる
- ②非常識を新常識ととらえよう
- ③最近のアスリート笑い過ぎじゃない?
- ④できる親のプラス思考コミュニケーション

メンバー：市島清貴(新潟経営大学経営情報学部教授) 野崎ミチコ、田辺とも子

いよいよ今年度の当会担当最終月がやってまいりました。今回のテーマは、ワイ女おなじみ大好評の「市島教授のコミュニケーション講座」です。一週目は、スタートから強烈なキーワードが飛び出しました。「～はバカだ、～はダメだ、～は嫌い」などの言葉を発していると主語(～の部分)は脳に残らず、バカ、ダメの部分だけが脳に残り、自分の脳に突き刺さる。なのでいつの間にか自分がバカでダメで大嫌いになってくる(のだそうです)。また、笑顔のそもそも論、親のことは子に移る、など分かっているようでもドキッとさせられる深くて楽しいおしゃべり満載の4週分、プラス思考のメンバーが、今年度の締めくくりを果たしました。どうぞお聴きください。

6ヶ月間、収録にご協力いただいた皆様、お聴きいただいた皆様ありがとうございました。10月からは燕生活学校さんが担当します。引き続きお聴きくださいますようお願いいたします。

*10月から放送日が変わります。本放送木曜日11:00から、再放送日は変わりません。(田辺)

3.

各種審議会等について 2件の報告がありました。

◆第1回三条市介護保険運営協議会 報告

平成27年度第1回三条市介護保険運営協議会が8月10日(月)、三条市役所で開かれた。第6期の初めての運営協議会であるため、委嘱状の交付、各委員の自己紹介の後、議事に入った。

- (1) 会長及び会長職務代理者の選任
会長に三条市医師会理事・田中吉明氏、会長職務代理者は三条市自治会協議会会長・久保富彦氏が選任された。
 - (2) 部会構成及び部会委員の指名について
17名の委員を地域包括支援センター運営部会9名、地域密着型サービス運営部会8名に分けて指名された。
 - (3) 平成27年度三条市介護保険運営委員協議会の審議計画について
第2回を12月から1月にかけて、第3回を2月から3月にかけて開催する。
 - (4) 高齢者福祉計画・第5期介護保険事業計画 平成26年度達成状況について
平成24年度、25年度と比較して、26年度の介護保険実施状況の説明が事務局からあった。
 - (5) 高齢者福祉計画・第6期介護保険事業計画における施設整備について
平成27年度、28年度に新たに開設予定の施設の計画状況の報告があった。
 - (6) 高齢者福祉計画・第6期介護保険事業計画の変更について
地域密着型介護老人福祉施設整備において嵐北圏域の1箇所の計画を嵐南圏域に変更する。
- その他、6月までの介護保険の実施状況についての報告がさ

◆第1回地域包括支援センター運営部会 報告

三条市介護保険運営協議会に続いて平成27年度第1回地域包括支援センター運営部会が開かれた。

- (1) 部会長及び会長職務代理者の選任
部会長に三条市医師会理事・田中吉明氏、会長職務代理者は三条市社会福祉協議会・小林東一氏が選任された。
- (2) 平成27年度地域包括支援センター運営部会の審議計画について
28年2月から3月に第2回の運営部会を開催する。
- (3) 介護予防給付ケアマネジメント業務委託について
支援者の介護予防サービス計画(ケアプラン)の作成を委託する7カ所の事業所が承認された。
- (4) 平成26年度地域包括支援センターの実施状況について
平成25年度、26年度併記、業務実施状況の報告があった。
- (5) 平成26年度地域包括支援センターの収支決算について
5地域包括支援センターごとの平成26年度収支決算報告がなされた。

4.

20周年記念研修について

はい、皆様、三条女性会議20周年記念研修の日時が、決定しました。今まで歩んできた20年を振り返り、また新たな明日に向けて一緒に出掛けましょう！

- 日 時 : 11月3日(火)、4日(水)
研修場所 : 東京方面(無理のないゆったりとした日程を考えています)
費 用 : 2万円位(会より若干の補助あり)
申 込 先 : お近くの運営委員 又は 野崎ミチコ (TEL080-1042-9788)
締 切 り : 10月1日(木)

5.

第34回高齢社会をよくする 女性の会(9/26,27)について

上記の会が、いよいよ長岡で開催されます。当会から5名が参加しますので、参加報告をお待ちください。

編集後記：

稲刈りで汗をかき少しはスリムになれたかな？でも・・・食欲の秋には勝てません。タニタの体重計、壊れたのかと思うほど。それでもめげずにおまんじゅうを片手に仕上げた鮮度一番197号です。どうぞ隅から隅までお読みください。(原)

編集発行：三条女性会議・代表 野崎ミチコ

連絡先：三条市田島2丁目12-12 TEL 32-3667 FAX 32-3679

ホームページアドレス：<http://www.joseikaigi.net>